

第1学年国語科学習指導案

1 日 時 令和3年11月19日（金）

2 学年・組 広島市立吉島中学校 第1学年

3 単元名 価値を見いだす 『不便』の価値を見つめ直す」（国語1 光村図書）

4 単元の目標

- (1) 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。
（知識及び技能）（2）ア
- (2) 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。
（思考力・判断力・表現力等）（C1）ウ
- (3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

5 本単元における言語活動

- ・ 目的に応じて、必要な情報に着目して要約し、「要約攻略本」を作成する。
- ・ 筆者の意見に対して、自分はどうのように考えるかが伝わるよう、根拠を明確にしながら工夫して「ハガキ新聞」を作成する。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。（2）ア	・ 「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。（C1）ウ	・ 他者と積極的に協働しながら、粘り強く目的に応じて必要な情報に着目して文章を要約し、内容を解釈しようとしている。

7 単元について

(1) 教材観

本教材は、中学校で最初に扱う意見文である。これまでに学習してきた「ダイコンは大きな根?」、「ちょっと立ち止まって」、「比喻で広がる言葉の世界」などの説明文や、『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」の記録文では、段落の役割を整理しながら読んだり、筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解しながら読んだりしてきた。

こうした学習を踏まえつつ、本教材は、必要な情報に着目して本文を要約する力を養うとともに、筆者の主張に対して自分の考えを持たせることをねらいとしている。

(2) 生徒観

当該クラスは、素直な生徒が多く、授業の発問に対する反応も良好で、日ごろの授業では新しく学んだことを活用しようとする姿勢がみられる。また、人間関係も良好で、他者と積極的に協働できる生徒も少なくない。

しかし、読むことの学習において、本文の内容を理解した上で観点ごとに整理するという活動に対して、自力で課題を解決できずに体裁を整えないまま本文をそのまま写している場面も見受けられる。こうしたことから、必要な情報を正確にとらえた上で、まとめる力の定着に課題があると考えられる。

(3) 指導観

- 目的に応じて必要な情報に着目して要約する力を養うために

小学校第3学年及び第4学年の「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」を踏まえ、本文に繰り返し出てくる言葉（キーワード）や段落やまとまりの中心となる文（キーセンテンス）に着目させ、「五十字の一文」に要約させる。その際、個人やグループで要約した文を読み合い、必要な情報が抜けていないかしっかりと考えることで、内容理解を深めさせたい。また、まとまりごとに要約したものを本文全体の要約に活用し、ハガキ新聞で自身の意見を主張する時の「根拠」として示させる。

- 研究主題「論理的な思考力の育成～『検討』『精査』の過程における思考の見える化をとおして～」との関わり

いくつかの要約文を確認する際、二色のマグネットを使って「工夫している点」「改善すべき点」を示し、要約文の検討を可視化させる。さらに、「良いと判断した要約文」に名札のシートを貼らせ、それを移動させていくことで、「必要となる情報」が何であるか生徒たちに気づかせたい。工夫点として挙げられた要約する上で注意することを整理し、最終的に「要約攻略本」としてまとめることで、他の活動にも応用できるようにする。

8 指導計画と評価の計画

次	時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	1	・本文を通読し、筆者の意見を捉える。		
2	2	・序論」の中心となる文を見極め、要約する。〔班〕	〔知識・技能〕(2)ア 〔思考・判断・表現〕 C(1)ウ	〔行動観察・ワークシート〕
	3	《本時》 ・要約文を比較し、要約のポイントを見つける。		〔行動観察・ワークシート〕
	4	・前時で見つけたポイントを活用して、「本論Ⅰ・本論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・結論」を要約する。(班で分担する)		〔行動観察・ワークシート〕
	5	・まとまりごとの要約を使って、		〔行動観察・

		本文全体の要約をする。〔個〕		ワークシート〕
3	6	・筆者の考えに対して、自分はどう ように考えるか、ハガキ新聞にま とめる。		〔行動観察・ ワークシート〕

※主体的に学習に取り組む態度については単元を通して評価するものとする。

9 本時の目標

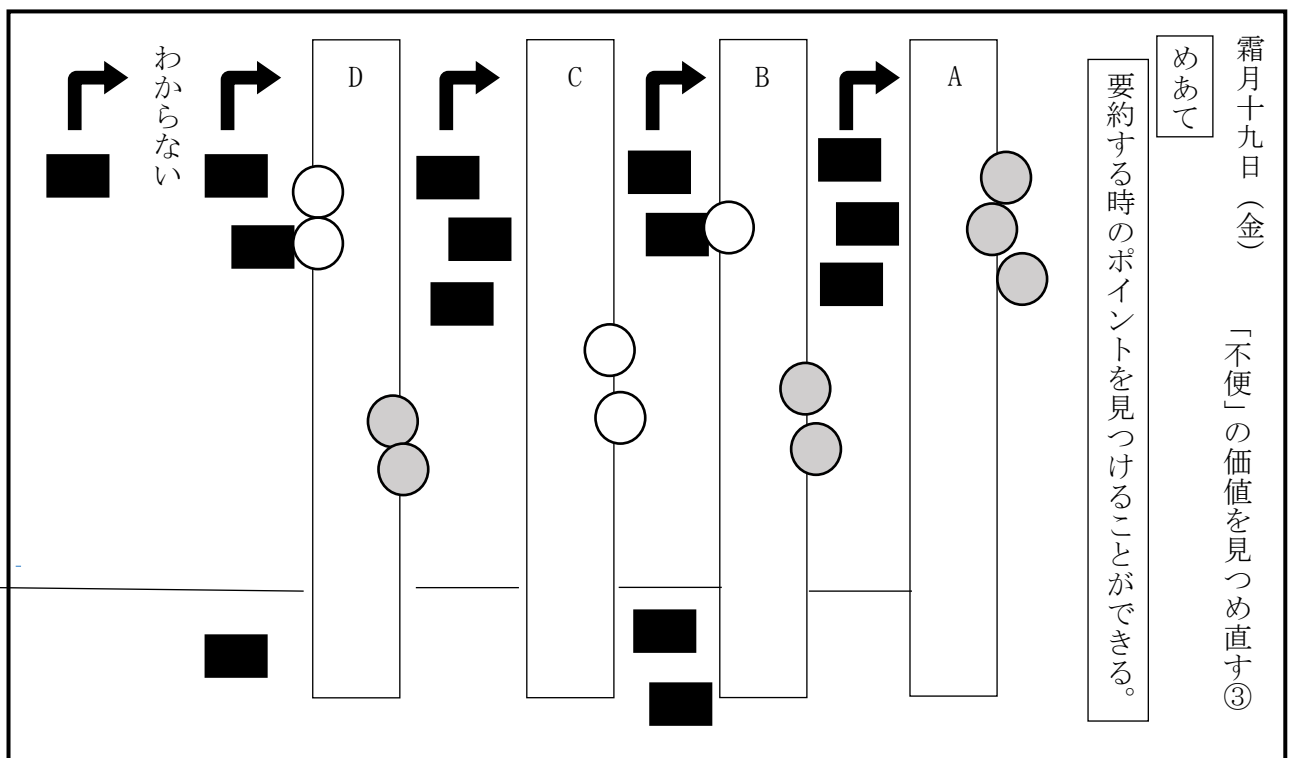
前時で班の取組として行った50字要約文を比べ、必要な情報が抜けていないか検討することや、言葉と言葉のつながりにおいて訂正すべきところがないか確認する過程を通して、要約する上での注意点（ポイント）を見つけることができる。

10 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の工夫・留意点	評価
導入 (5分)	1 前時の内容の復習	○前時に、班ごとで、「序論」を「50字1文要約」したことを想起させる。(要約とは何か、また何に気を付けながら要約したか、簡単に発表させる。)	
	2 本時の目標を確認する	○本時では、その要約文を確認していき、要約する時にどんなことに気を付けるべきか見つけていくことを伝える。	
要約する時のポイントを見つけることができる。			
展開 (40分)	3 「序論」の範読を聞く。(5分)	○自分たちが前時に考えた「必要な情報」を想起させる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思・判・表</div> B評価 必要となる情報が抜けていないか、言葉のつながりに無理がないか確認し、要約のポイントを見つけている。
	4 要約文を比べ、どの要約文がよいか考える。 (個人) 7分→ (全体で交流) 10分 (全体で確認) 10分	○「もっとも良い」と判断した要約文に名札を貼らせ、特に良いと感じた部分にマグネットを貼らせる。同時に、他の要約文に対して修正すべきと感じた部分にもマグネットを貼らせる。 ○全体で交流する際、名札を確認しながら、多くの生徒と、マグネットを貼った部分を中心に話し合わせる。その際、「もっとも良い」と判断する要約文が変わったら名札を貼りかえさせる。 ○マグネットを確認しながら指名していき、全体で確認していく。 ○ポイントを発表させ、まとめる。	

	<p>5 要約するときのポイントを考える。 (個人) 3分→ (全体) 5分</p>		
<p>まとめ (5分)</p>	<p>6 ノートに振り返りを記入する。 7 次時の予告をする。</p>	<p>○本時で確認した「要約のポイント」を使って、他のまとまりの要約をしていくことを伝える。</p>	

1.1 板書



- …生徒の名札 (もっとも良いと判断した要約文に貼らせる。)
- …赤色磁石 [名前入り] (良いと判断した要約文の特に良いと思う部分に貼らせる。)
- …青色磁石 [名前入り] (選んでいない要約文の特に修正すべきと思う部分に貼らせる。)

※要約する時のポイントについては、電子黒板に記録していく。